

大神楽再起優勝

紙相撲新聞

第155回本場所
十日目、千秋楽号

編集・発行
日本紙相撲協会

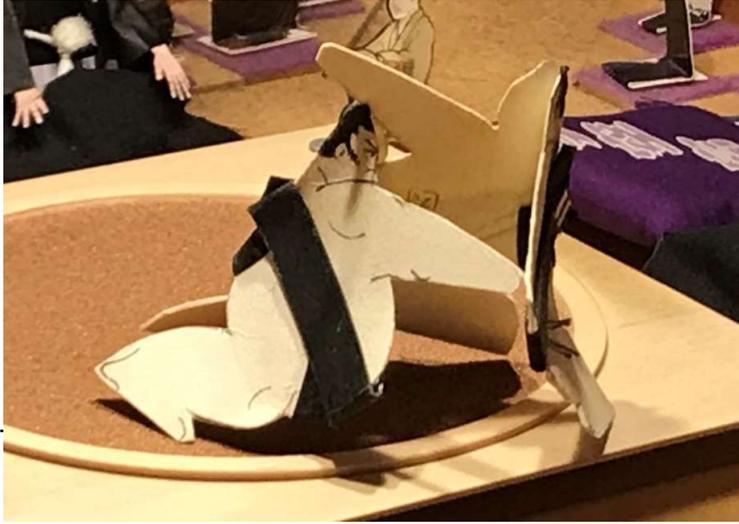
稽古をしないことで体調が万全

場所後に満場一致で大関推挙

【第一百五十五回本場所十日目千秋楽】

都内の桜もすっかり散ってしまっ
が、練馬国技館は熱気に包まれる中、
4月17日に十日目と千秋楽が開催
された。開催に先立ち、去る3月に亡
くなられた日本紙相撲協会創設者の徳
川義幸氏を偲び、感謝の気持ちと哀悼
の意を表する1分間の黙祷が朝日松理
事長の発声により参加者全員で捧げら
れた。

今場所は千秋楽まで上位陣による優
勝争いが繰り広げられたが、最後に賜
杯を抱いたのは関脇大神楽だった。千
秋楽結びの一番で、2敗の横綱春ノ翔
と優勝を賭けた直接対決を制して10
勝1敗(2回目)の優勝で、復活を印象
づける見事な優勝となった。また、打
ち出し後、緊急理事会が招集され、満
場一致で大関昇進が決まった。



↑本割で優勝か、決定戦にもつれ込むか、意地のぶつかり合いは名勝負を生んだ。熱戦の末、大神楽が春ノ翔を寄り切り、復活の雄叫びをあげた。



↑改心した磯ノ海親方の無指導、無稽古が功を奏して、大神楽は元気一杯。全盛期の状態に復活した。

三賞は、殊勲賞は2
横綱1大関を倒した小
結烏帽子岳(初)と同
じく2横綱1大関を倒
し千秋楽に勝ち越しを
決めた前頭筆頭の鹿富
士(2回目) 敢闘賞は
関脇大神楽(4回目) 技
能賞は関脇大神楽(3
回目)と鋭いどの輪
で優勝争いを盛り上げ

大神楽の十日目
は3敗の鉄甲と初
顔の一番が組まれ
た。新鋭鉄甲がど
のような相撲をみ
せるか注目がされ
て1敗を守り、



大神楽○(寄り切り) ●鉄 甲

この時点で3敗組の優
勝はなくなった。また
今場所はのど輪が牙え
て横綱を押し倒し、大
代小結の出羽だに破っ
た。小結の出羽は、勝
子岳に力なく対戦して
戦線から脱落した。優



若 巨○(引き落とし) ●白閃光

ここまで出世したな
！と感慨にむせぶ霧
ヶ浜親方。その期待に
応えるかのようにな
る。光を引落しに喜ば
せて、親



若巨、春ノ翔、千代鈴の三役揃踏み

九日目を終えて、関脇大神楽が1敗
で優勝争いの単独トップに立ち、これ
を2敗で横綱春ノ翔、大関千代鈴、小
結出羽の3人が追う展開で、十日目を
迎えた。3敗の横綱美空富士、平幕の
鉄甲、喜乃郷、月山、雪若丸、寶蔵、生
駒山の7人も数字の上では優勝の可能
性もあったが、まず2敗までの4人に
絞られたと言ってもいい状況。

た小結出羽(初)がそれぞれ受賞し

優勝	殊勲賞	敢闘賞	技能賞	十幕	三幕	序二段	序口
大神楽	鹿富士	大神楽	大神楽	暫	富国	力士	自力
十勝一敗	六勝五敗	十勝一敗	十勝一敗	九勝二敗	五勝	五勝	五勝
(2)	(初)	(4)	(3)	(二)	(初)	(初)	(初)

この日の注目は結びの横綱春ノ翔と大関千
代鈴の2敗同士の対戦。勝った方が優勝争い
に残るといえる。春ノ翔は千秋楽に千代鈴が勝
っているだけに、まだ自力優勝のチャンスが
あるが、千代鈴は自力優勝のチャンスはない
ものの、あと2番勝って連続優勝に望みを
なげたいところ。



春ノ翔○(引き落とし) ●千代鈴

優勝争いは千秋楽結びの一番の春ノ翔と大
神楽の直接対決で争われることになった。
大神楽が勝てば、両者による優勝決定戦にもつれ
込むことになる。

迎えた千秋楽。大い
に盛り上がりを見せる
千秋楽はいよいよ三役
北海踏みに。この日は
霧ヶ浜親方が参加。弟
子たちの勇姿に目を細
める中、部屋頭の若巨
が初めて三役揃踏みに
登場した。「よくぞ